

# 笑顔の ひろば

vol. **28**

2015年 新年号

川崎協同病院  
広報誌

<http://www.kawasaki-kyodo.jp>



## 将来構想を実現する年に

地域のみなさま、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は消費税の増税があり、医療機関にとっても厳しい年でありました。本年も介護報酬のマイナス改定が予想されるように社会保障を取り巻く情勢は楽観できる環境にはないと感じております。

このような厳しい状況下においても、私ども川崎協同病院は、将来にわたり地域に求められる医療に呼応できるよう、昨年、

将来構想会議を立ち上げ、8つの重点プロジェクトの中で今後の中長期構想を討議してまいりました。

今年は答申に基づいて構想の実現をはかる年であります。その第一弾として春には電子カルテの導入を予定しています。

今年も地域のみなさまからより一層のご指導を賜りながら、職員一丸となって地域に貢献できる医療機関をめざしてまいりたいと考えております。



院長 田中 久善

## 川崎協同病院、電子カルテが5月7日から稼働！ ～効率的で安全な医療をめざして～

現在、川崎協同病院では、電子カルテの導入に向けて着々と準備を進めています。導入後は、より効率的で安全な診療や事務処理が行えるようになります。

当院では、電子カルテ導入準備委員会として昨年1月に導入を検討し、昨年9月から電子カルテ導入プロジェクトとして本格的に始動しています。今後は2月から職員の操作訓練を開始し、3月には模擬患者を立てた院内全体のリハーサルなどを計画中です。

電子カルテと聞くと一般的には診療記録をワープロ入力しているだけだと思われるかもしれませんが、その役割は多岐にわたります。まず第一に、血液検査にはじまり、X線撮影・胃カメラ・心電図や切除標本の病理診断などすべての検査オーダー、さらには各種の処置や外来診察の予約や入院の予約、あるいは手術の申し込みにいたるまで、日常診療のすべてのオーダーを医師が診療中に電子カルテに入力します。

また、他院からの紹介状もスキャナーで電子カルテの中に取り込みます。協同ふじさきクリニックで行った検査結果も電子カルテに記録されていますので、一貫した診療が可能です。また、診断書や他院への医療情報提供書も電子カルテで作成します。

さらに、諸検査や処置・処方・点滴はすべて医事会計に連動しており、事務処理・支払い計算も確実にスピーディーに

なります。医師からの各種指示が電子カルテ上で確認できるため、書き間違いや読み間違いが発生しづらく医療安全の確保にも極めて優れています。

電子カルテ操作を習熟すれば、診療を効率的に行え、検査結果の参照も迅速で、正確でミスが少ない診療ができます。

### 電子カルテの意義

1. 記録の普遍化・公正化
2. 診療の迅速化
3. 雑務の省力化
4. データ保存空間の圧縮
5. チーム医療の推進
6. 安全性の向上
7. 情報の公開
8. インフォームド・コンセントの充実
9. 信頼の向上

慣れるまでは様々な混乱（操作等の不慣れやシステムバグなど）が予想されるため、出来る限りスムーズな導入ができるように最新の注意を払い取り組んでいます。

### 電子カルテ導入初期に予想されるご意見

- 待ち時間が長くなった
- 医者・看護師等が患者を見る余裕がない
- 説明が不親切

医事課 主任 戸塚 雄介

# 地域医療に貢献する医師を養成します！



内科 医師  
吉田 絵理子

川崎協同病院は厚生労働省指定の臨床研修病院として研修医養成を行っています。地域の中小病院という特徴を活かしてプライマリケアや地域医療に興味を持つ研修医を積極的に受け入れています。規模の小さい病院のため、最先端医療は学べませんが、初期研修で獲得すべき一般的な疾病をきちんと診る基礎的診療能力をつけることを重視しています。

初期研修で大切にしていることは何なのか？当院で初期研修し、外部の病院での経験を経て、現在は教育担当として初期研修医教育を中心的に担っている内科の吉田絵理子医師に話をききました。聞き手は広報委員の木下です。

## 一初期研修で特に獲得すべき力は何でしょうか？

**吉田医師** 医療の知識・技術は時間をかけて習得するもので、2年間で完成する訳ではないので、研修医指導で意識しているのは“姿勢”と“考え方”の形成です。

最初の2年はある意味、大きなチャンスで、それまで患者側だった人が“医師”という職業人になっていく期間なので、患者さんに一番近い視点を持っています。その時期に患者さんにどう向き合うかを考えてもらうことが大切です。“お医者様”になってしまうのは簡単ですが、そうではなく、一人の人間として、医師の役割を全うする。そういう姿勢を身につけてもらうよう意識しています。姿勢でもう一つ、これはある先輩から教わった言葉ですが、「医師は一生一学生」です。生涯学び続けなければいけない職業なので、2年間で学び続ける姿勢が身につくよう指導しています。

考え方というのは患者さんを前にした時に、どう話を引き出し、身体所見をとり、思考し、診断に至るのかという一連の思考の枠組みのことです。2年間を通して身につけてもらうよう、カンファレンスやコンサルトの際に繰り返して指導しています。

もう一つがチーム医療です。例えば研修医がどれだけ優秀でも、周りとうまい関係を作って連携できなければ最善の医療は提供できないので、医師自身もチームの一員として連携しながら患者さんを診ていくということに気づいてもらいたいと思っています。うちの病院は多職種カンファレンスが比較的充実していて、チーム形成に役立っていると思います。よくあるのは、倫理的な葛藤がある事例で、答えがない中でも何かを決定しなければいけないということです。多職種でどのようなディスカッションをして決断に至るのか。指導医も悩みながらやっている。そのプロセスを一緒に踏んでいくことが大切だと思います。

## 一川崎の地域医療を伝える上で意識していることはありますか？

**吉田医師** この地域は“労働者の町”で生活背景に困難を抱えている人が比較的多く、中には対応が難しい患者さんもいらっしゃいます。医師自身も差別意識が出てしまいそうなところを、どんな方にも最善の医療を提供するという医師の役割を指導医が背中を見せることで気づいてもらいたいと思っています。例えば他の病院で受け入れてもらえ



後輩とのコミュニケーションは大切にしています

ないような社会的に困難さがある患者さんを入院させるかどうかカンファレンスで議論になった時に『この患者さんを入院させることはうちの病院の役割だ。』と指導医が示すことで、研修医が病院の持つ役割を気づいてもらいたいと思っています。どこの地域で医師をやるにしても、その地域の課題があるはずなので、そこに目を向ける必要があります。そしてその病院の役割を理解して医療を行うことが地域医療を学ぶ上で大切です。

## 一地域連携では研修医にどのように教育していますか？

**吉田医師** 高齢化で、退院困難なケースが増えています。退院カンファレンスに転院先のスタッフの方にも参加してもらっていますが、そういう場が研修医の地域連携の教育には大事です。

私自身が経験して勉強になったことは地域医療研修で診療所をまわった時、訪問看護を経験したことです。看護師さんと一緒に訪問して看護業務をする。当院のプログラムでは大抵経験しますが、それ以外にも研修医には“病院を出ること”を勧めています。例えば高次医療機関に転送になった患者さんのオペを見学させてもらう。そういうことで他院との連携を意識づけています。転院先でも自宅でも百聞は一見にしかずなので“病院から出て見に行く”チャンスを研修医に与えることは意識しています。

地域包括ケア時代には一病院完結は不可能なので、地域との連携がより重要になります。今、ソーシャルワーカーと一緒に事例検討会で地域の先生方と一緒にディスカッションする機会を検討しています。また、今後は医師会の勉強会に私自身も出させていただいて、研修医も連れていけるようにしていきたいです。

地域の先生方と顔の見える関係をつくり、近隣で地域に根差して医療をおこなっていらっしゃる先生方からも、この地域のことを研修医に教えて頂けるようにしていきたいと思っています。

# 時代の要請に応える 充実したリハビリ体制で地域貢献



2007年9月に1病棟40床でスタートした当院の回復期リハビリテーション病棟は、2011年10月に2病棟92床に増床されました。昨年末時点で、理学療法士32人、作業療法士23人、言語聴覚士4人がいます。

これまでさまざまな障害を持っている人たちが、安全かつ意欲的に訓練に取り組んでいける病棟になるよういくつかの取り組みを行ってきました。

まず、入棟者全員の治療方針について、多職種の参加で話し合うケースカンファレンスを、月1回位を目安に継続的に行うようにしました。また、リハビリテーションスタッフを継続的に増員し、1病棟時代に行っていた365日リ



スタッフみんなで患者さんのQOL向上を応援します

ハビリテーション実施体制を再開し、切れ目のない機能訓練の場を提供するようになりました。

昨年4月には横浜市立大学リハビリテーション科より常勤医師1人、非常勤医師1人が赴任し、これまで不十分だった装具作成や嚥下機能評価に、より積極的に取り組めるようになりました。その結果、移動能力が向上し、また、より適切な食形態を提供できるようになり、訓練効果をより実感していただけるようになっていきます。

今後も地域連携を通じた地域医療への貢献を目指してまいります。

副院長 荒木 重夫



病棟での嚥下訓練の様子

## STAFF「もうひとつの顔」

### お祭り・和太鼓大好き！ 笑鼓楽の太鼓でリフレッシュ！！

栄養科 管理栄養士 星野 利枝  
ほしの としえ

今年3月から栄養科で働いている管理栄養士の星野です。お祭り大好き！屋台でおいしい物を食べることもだいすきな私です。みなさんは、お祭りなどで和太鼓の音を耳にしたことがありますか？私は、あのドーンドーンとお腹



先輩に相談しながら患者さんの栄養サポート！



に響いて体を感じる和太鼓の音に魅せられて10年程前から、和太鼓を習っています。私の所属している和太鼓チームは、笑鼓楽(ショコラ)といいます。笑鼓楽は、10代から70代の幅広い年齢層で構成されていて、各地に伝わる和太鼓・お囃子や唄・踊りなどの民俗芸能から創作曲までいろいろと練習し“笑顔で太鼓を楽しもう”というスローガンのもと活動をしています。演奏場所は、桜本商店街の日本のまつりや、太鼓仲間が一堂に集まる江戸やっこまつりなど様々ですが、練習や演奏をとおして、仲間の笑顔や観客の拍手に元気をもらい、心も体もリフレッシュすることができます。

太鼓でもらう元気を仕事のパワーに変えて、病棟での食のサポートをしていきたいと思っています。



病院は地域との連携が何より大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、毎号紹介していきます。第8回はホームレスの人たちなどを支援する「川崎市自立支援センター日進町」です。

(取材：地域連携室 鍵屋 真理 高橋 靖明)

「川崎市自立支援センター日進町」は、社会福祉法にある第二種社会福祉事業として川崎市から委託され、社会福祉法人川崎聖風福祉会が「川崎市ホームレス自立支援実施計画」に基づいて運営しています。

川崎駅から歩いて15分ほど、旧東海道沿いの繁華街に近いところにあり、5階建てのつくりになっています。ホームレスやネットカフェなどで不安定な就労でホームレス状態にある人が自立した生活ができるよう一時的に宿泊場所や食事、衣類、日用品を提供しています。また、求職、住居、医療、健康などの相談に乗り、他機関と連携しながら自立に向けた支援を行っています。

入所する人には、就労による自立を目指す「就労自立コース(原則90日以内)」、就労自立可能か生活支援が必要かどうかを判断するための「見極めコース(原則30日以内)」、災害等緊急避難のための「緊急避難コース(原則14日以内)」の3種類があります。

入所者の定員は82人。平均年齢は50歳代ですが20～30代も多く、基本は4人部屋(個室あり)で、風呂、トイレ、流し等は共有。食事は、3食お弁当。毎日の日課や掃除等の役割分担、禁酒や門限等の様々な決まりがあり、「自立支援プログラム」を立て生活します。

ハローワークの職員も常駐しており、また、他の就労支援機関と連携し、フォークリフトやボイラー、運転免許、ヘルパー等の資格取得やパソコン、清掃業務等の専門技術習得のための支援も行っています。

入所中の就労収入については一部を除き退所後の資金のために、本人と了解のもとセンターで管理することになっています。自立後の住まいは、不動産屋などとも連携し、保証人なしでも借りられるよう支援します。自立支援で就労につながる人は8割程度いますが、1ヵ月程

## 自己と向き合い、自立した人生を再出発するためのサポート

### 川崎市自立支援センター日進町



困難を抱える方を支えるため、日進町に拠点を構える

度でいなくなってしまう人も多く、また、就労収入だけで自立できる人は限られており、実際自立できる人は1割程度。

「話をよく聴き、本人が自ら意向を考えだし、それに寄り添う。心を閉ざしている人が多いので何度も話す機会を持ち、心を開いてもらうことが大事。入所した時こわばっていた顔が、退所時には別人のように穏やかな表情になる。一番の喜びは、退所した後も、顔を出してくれること」と、横島正志所長は言います。

#### ●川崎協同病院へひとこと・・・

いつも困った時に困難な方を受け入れてもらっていて、とてもお世話になっています。今後もよろしくお願いします。

#### ●おじゃまして・・・

仕事や住まいが見つかるということだけでなく、自己を見つめなおし、人とのつながりや地域・社会との関わりを再構築することで、本当の意味での自立につながるのだと、感じました。

社会福祉法人 川崎聖風福祉会

川崎市自立支援センター日進町

所長 横島 正志 氏

川崎市川崎区日進町 12-11 044-222-1017

## 広報係 の ひとりごと

銭湯が好きだ。裸になってしまえば、地位や立場など関係ない。裸がその人の人生を語る。肉付きがよい人、痩身の人、おなかに傷あとがある人もいる。体の洗い方ひとつでも、親のかたきを取るかのようにゴシゴシこする人や、石鹸をつけたのか否かわからないくらい、さっと終える人もいる。私はそれを見ながら、勝手にストーリーを考えるのが好きだ。「あの人、長いこと隣の人に愚痴っているけど嫁とうまくいっていないのかしら?」、「念入りにパックをしているから、これからデートかも」等々。私も同じように周りの人に見られているのだが、そんなことを忘れて楽しんでいる。川崎協同病院の近隣にもかなりの数の銭湯が残っている。多様に楽しめる銭湯、お勤めだ。

看護学生担当事務 平舘 浩美

